

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン (リズム)		
所在地	〒819-0041 福岡市西区拾六町1丁目21番11号	092-883-2223	
自己評価作成日	平成26年11月07日	評価結果確定日	平成26年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フラワーガーデンは、2、3階に有料老人ホームと短期入所施設、1階にデイサービスが庭園を囲むように併設しています。グループホームの裏には花や野菜を育てる小さな菜園があります。名前の由来通り、いつも季節感を感じながら心穏やかに花々が咲いています。近隣には保育園や団地があり互いの行事に参加して楽しんでいます。恒例となっている夏祭りには、ボランティアや地域業者の協力のもと敷地内に露店を出すことで、多くの近隣住民の方にも来て頂けるふれあいの場となっています。入居者様に対しては、一人一人の個性を大切に、五感で感じて頂けるサービスの支援に努めています。介護度が高くなるなかで、出来るだけご本人の意向に副ったケアを心掛けて接しています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年12月05日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内に展示している。 介護に込めた思いを管理者、職員間で話し合い作成した理念を随時話し合い実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議へ、地域の方が出席している。 又、地域の清掃作業など、積極的に参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭や音楽会、その他の行事は、案内や声掛けを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催して、現状報告、活動内容等を報告している。参加の方の率直な意見、要望を伺い、日々のケアサービスの参考にしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後、介護上の疑問点を相談している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議の場で、話し合い確認をしている。 身体拘束は、事故に繋がらない場合を除いて禁止している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、会議の場で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議などで勉強会をしているが、具体的に説明できる者は少ない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に不安や疑問点がない様に時間をかけて十分に説明している。利用料の変更などあった場合は、変更のない内容を説明し、同意書の取り交わしをおこなっている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換、又、来館時に会話の中での意見や要望など、その都度改善や対応が出来る様にしている。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、意見や要望など言いやすいように雰囲気作りを努め、改善、反映できるように心がけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに職員は、自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は、人事考課で評価し、昇給や昇進に反映している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	学歴、経験、年齢など重視せず、福祉に対する思いやりや、やる気を重視している。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や研修等で定期的に話し合っている。職員間でもその都度、気がついた事は、注意しあって改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修をいつでも受けられる体制を確保している。また、内研修も研修委員を中心に定期的に行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	懇談会など積極的に参加し交流を深め情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活暦、性格、趣味など把握しまた、日々様子観察を行い、安心して過ごされる様努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して日ごろから笑顔で話しやすい環境作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に対応できるよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は維持されるよう対応し共有できることを見出し共に取り組めるよう努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話や毎月の手紙などで状況を把握して頂き共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも外出でき、面会時間も制限しないで場所や関係が途切れないよう努めている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間に入り一緒に作業やレク等を楽しんで頂けるように配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に行事等の案内状を送付し法事等にも出席している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め安心して過ごして頂ける様に希望や要望を伺い、全職員が把握し対応できるようにしている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活情報を収集して安心して楽しく過ごして頂けるように工夫し、本人に合った環境作りをしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや伝達ノート、経過記録を活用し把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様からの希望や要望を考慮し、職員会議時カンファレンスを行い、必要に応じた意見や要望が組み込まれるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや伝達ノート、業務日誌を活用し、職員会議で話し合い把握している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や入居者様の要望で通院や買い物・食事・外泊等の支援も柔軟に対応している。また、同業の事業施設との連携により、入居者様のニーズに応じたサービスの提供に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアや中学校からの体験学習を受け入れて、協力や交流を深めている。また、避難訓練時は消防署の協力を得ている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を重視し、入居時に選択できるようにしている。月2回の定期往診、体調不良時の臨時往診などで、主治医・ご家族様・職員と連絡を密にしている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや伝達ノート、個人の医療記録ファイルなどで、情報を共有し、異常の早期発見に努め、必要時には他部署の看護職にも協力を求めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に職員が交代でお見舞いに行き状態を把握できるよう入院先との情報交換を行っている。また、退院前には可能な限り家族を含め、医師からの説明を受けるようにし、受け入れ準備を整えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて入居者様の問題点やご家族様の意向を考慮しながら、対応策を話し合い、ご家族様の意向をその都度確認しながら、医師・訪問看護師との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を職員全員が定期的に受講している。また、施設へ消防より講師を招いて講習会を開いている。緊急時のマニュアルを作成しいつも実践できるように勉強会をしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年2回避難訓練・呼集訓練を実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の背景を尊重し(生活習慣・過去の仕事)理解して対応している。個人情報保護法を厳守して安心して楽しく送れるようにしている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせ、自ら決めて頂けるような選択の声掛けを行い、スタッフとの会話が自然にできる環境づくりを心掛けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望に添えるように生活リズムに合わせた支援をおこなっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個々に合わせた服装や本人の好みを重視している。本人希望の髪型に添えるように鏡を見て整髪出来るように支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員が会話しながら楽しく食事の準備をしたり片付けをして活躍して頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量はチェック表にて把握し、必要に応じて栄養剤を処方してもらい栄養状態が悪化しないようにしている。また、入居者様の状態に応じて食事形態や用具を工夫して支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い入居者様の状態にあった用具を使用している。また、必要に応じて訪問歯科を導入している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄のリズムを把握しさりげない声掛けにて誘導し、失敗がないよう見守りや声掛けを行っている。おむつの使用があってもトイレでの排泄を行っている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、腹部マッサージなどを行い、入居者様の状態に合わせて、かかりつけ医の指示の下、下剤を選択しコントロールしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日に入浴しているが、入居者様の希望に合わせてゆっくりリラックスして気分よく入って頂くように支援している。季節に合わせた、パラ風呂や菖蒲風呂なども行っている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう一日の生活リズムを作り日中の活動、リハビリなど積極的に行っている。また状態に合わせて、昼寝を取り入れている。休んで頂く際には、安楽な体位が保てるよう工夫している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状をカードックスに貼付し、用法・用量などすぐに確認できるようにしている。服薬の際には、チェック表にサインし服薬確認、誤認防止、服薬責任の所在に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に合った役割分担を行い、洗濯物たたみや花の水やり、お皿洗いなどを通じて、張り合いや気分転換して頂けるよう支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや食事会などを取り入れている。入居者様とご家族が外出される際には、ご希望に添えるよう支援している。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を持つことを希望されれば所持して頂き、必要に応じて使用して頂けるよう努めている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コミュニケーションを大切にし、いつでも電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に整理整頓を行い、季節や行事ごとの写真や飾りを作成し、生活感を取り入れ居心地良く過ごせるように心掛けている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の座席やソファの位置を工夫し入居者様に応じて席の配置をし、自由に且つ安心して気の合う入居者様同士が寄り添えるよう配慮している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の生活歴を考慮し、使い慣れた物や希望されたものを配置することで、居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様個人に合わせて、出来るだけ残存機能を活かし居室内の配置も工夫することで自立した生活を送って頂けるよう心掛けている。		